

## 世界に広がる豊かな人的ネットワーク

本研究科が持つ多様性と豊かな人的ネットワークの広がりを見せ、世界地図上にてピックアップし、本研究科の在学・修了生による世界各地の開発フィールドでの活躍や現地に寄せる思いをご紹介します。

### 尾田 直美 [ 修了生 ]

JICA セネガル事務所 ボランティア企画調査員

現在、セネガル国における協力隊事業班全般業務（協力隊員の受け入れ先における要望調査、新規案件開拓、協力隊員の活動支援等）に従事しています。

服飾業界で働いていましたが、チュニジアにおけるボランティア活動をきっかけに、海外ボランティア人材のコーディネーターとして国際協力に貢献する仕事へと大きくキャリアチェンジしたため、開発の基礎を学びたいという思いから入学を決意しました。

論文執筆の道のりは決して平坦ではなく、2019年には当時勤務しており研究対象でもあったスーダンで政変が起こり退避帰国となり、予定していた現地調査ができなくなりました。また退避後は勤務国が変更になるなど、本務としても研究を続ける上でも非常に苦しい状況でした。現地に行けない分、文献研究に力を入れ、主な調査対象を変更したり、emailを用いるなどの工夫を行い、また、指導教員の熱心で丁寧なご指導のおかげで論文を書き上げることができました。論文執筆において得た学びは研究成果だけでなく、あきらめずにコツコツ続けることや、目の前にある壁に圧倒されても必ず乗り越えられる、という気づきを得たことです。

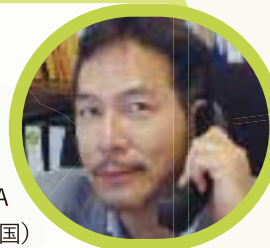


### 相園 賢治 [ 修了生 ]

Aizono and Associates Limited

通信課程を修了後、2013年にケニア・ナイロビにてビジネスコンサルタントファームの現地法人を設立し、日本政府のODA事業や日本企業のアフリカ進出支援、またアフリカ各国（20か国）の地場産業振興のお手伝いをしてきました。通信課程では様々な学びがありましたが、一番の収穫は現在も続いている修了生同士のネットワークでしょうか。

2019年より新たにアフリカスポーツ振興のプラットフォームを立ち上げてきましたが、この修了生ネットワークのおかげでワールドワイドなプラットフォームができつつあります。アフリカの開発をスポーツとビジネスの切り口で考えてみることにご関心のある方は、ぜひこのプラットフォームを盛り上げていきましょう。



### 新居 真梨子 [ 修士課程 2年 ]

本学に入学した2021年から約2年間、JICA 海外協力隊としてマラウイ共和国へ派遣されていました。1つの教室に約70人以上の児童がおり、教室には電気もなく教科書や机なども十分でない地方の小学校で、算数を教える活動を行っていました。派遣前は日本で学校の教員をしていたことから、マラウイのような環境であっても、教師主導ではなく、学習者中心の授業は可能なのか？という疑問を抱き、協力隊の参加と同時に修士課程に入学しました。インターネット環境さえあれば日本でも途上国でも学ぶことができ、私にとって大きなメリットでした。本学では国際保健や、開発と障害、地域開発など、さまざまな視点から学ぶことができます。帰国してからはまた中学校教員に戻り、日本の子どもたちと世界のことを一緒に考える授業を展開しています。今後も日本とマラウイでの経験を活かし、さらに大学院での学びを深めていきたいです。